

循環型社会の形成に関する意識・行動調査結果

1. 調査概要

「循環型社会形成推進基本計画」（平成 20 年 3 月）の取組指標として掲げられている「循環型社会形成に向けた意識・行動の変化」の実態を把握するため、インターネットによる調査を実施した。

なお、昨年度実施した同調査において、インターネット調査と郵送調査の有意差検定を行い、郵送調査の方が循環型社会の形成に関する意識が高い設問が一部見られたものの、90%程度の信頼度が得られていることから、本年度はインターネット調査のみ実施している。

調査設計にあたっては、経年比較できるように昨年度調査をベースとしたが、ごみ排出量や処理費用に関する設問（問 4～問 7）や分別ごみの処理・リサイクルに関する設問（問 10～問 12）など、いくつか新たに設問を追加して実施した。

調査方法	インターネット調査(Yahoo! リサーチ)
調査名称	廃棄物に対する意識・行動に関するアンケート調査
調査期間	2008 年 9 月 11 日(木)～ 2008 年 9 月 16 日(火)
調査対象	全国の 20 歳代～70 歳以上の男女(Yahoo! リサーチ・モニター)
有効回答数	1,055 名

2. 昨年度調査との有意差分析

循環型社会形成に向けた意識や行動の変化について、昨年度調査の結果と比較検討を行うにあたり、統計学的な有意性の有無を比較するため、設問別に比率の検定による有意差検定を行った。

設問別の各項目の有意性の有無については、資料の最後に一覧として整理した。

また、次ページ以降の設問別の「概要・経年比較」における昨年度調査との比較コメントにおいて、5%有意水準で有意であるとの結果が得られているものについては、文末に(*)を付けている。

なお、検定式は以下の通りである。

$$Z = (p_1 - p_2) / \sqrt{\bar{p}(1 - \bar{p})(1/n_1 + 1/n_2)}$$

p_1, p_2 : サンプル 1, 2 における比率

n_1, n_2 : サンプル 1, 2 の数

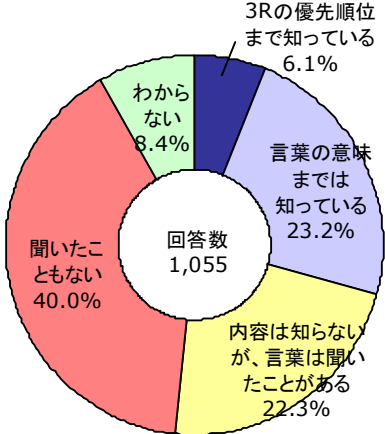
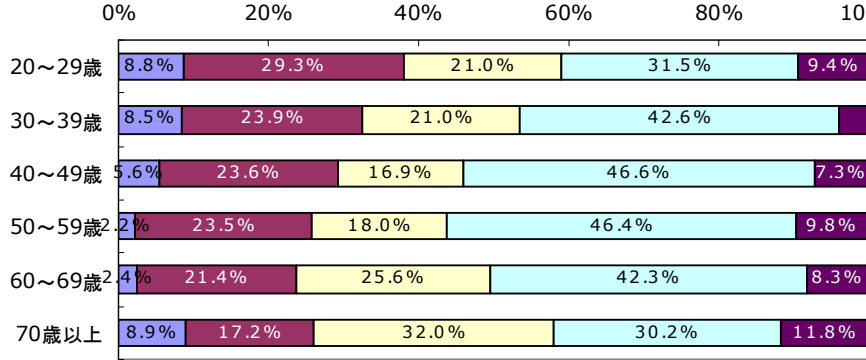
\bar{p} : p_1, p_2 の加重平均

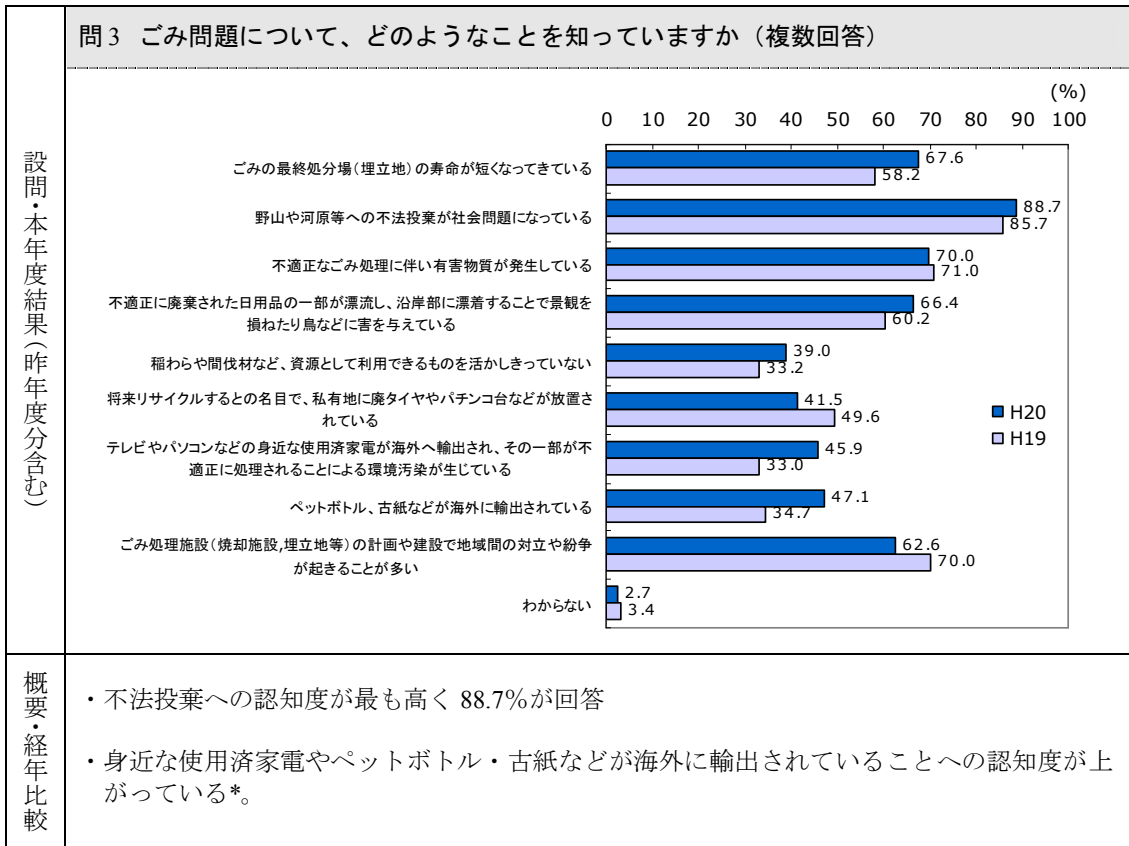
3. 調査結果及び経年比較

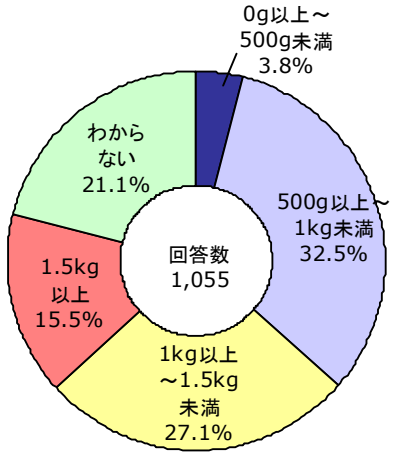
本年度調査結果をまとめるとともに、昨年度調査結果と比較できる設問については、比較結果を整理する。また、年齢や性別による差が顕著なものについては、クロス集計結果も掲載している。

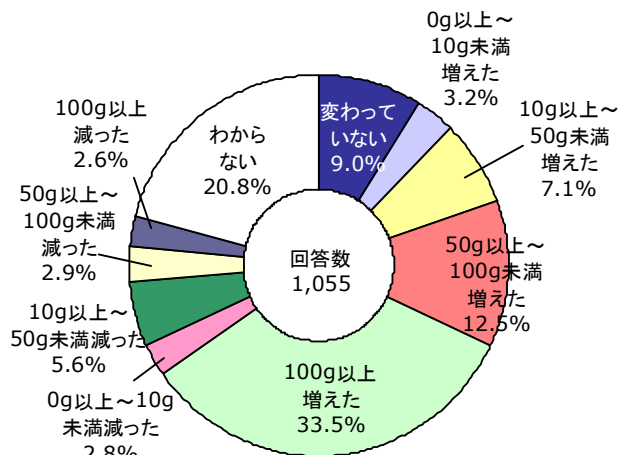
(1) 循環型社会に関連する一般的な意識

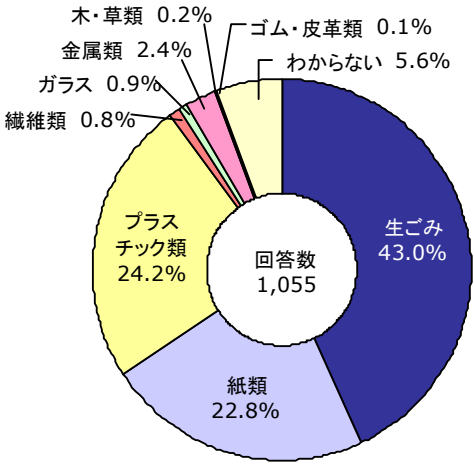
設問・本年度調査結果		概要・経年比較
<p>問1 ごみ問題にどの程度関心がありますか。</p> <p>回答数 1,055</p>		<ul style="list-style-type: none"> ・「非常に関心がある」、「ある程度関心がある」の合計は86.1% ・85%以上と高い水準で、昨年度とほぼ同程度となっている。 ● H19年調査：85.9%
問1×年齢	<p>0% 20% 40% 60% 80% 100%</p> <p>20～29歳 15.5% 64.1% 17.1%</p> <p>30～39歳 9.1% 70.5% 17.6%</p> <p>40～49歳 11.2% 72.5% 12.4%</p> <p>50～59歳 14.2% 72.1% 10.4%</p> <p>60～69歳 26.8% 67.3% 4.2%</p> <p>70歳以上 31.4% 63.3% 4.7%</p> <p>■ 非常に関心がある ■ ある程度関心がある □ あまり関心がない □ まったく関心がない ■ わからない</p>	
概要	<ul style="list-style-type: none"> ・年齢別に見ると、「非常に関心がある」「ある程度関心がある」との回答は、年齢が高くなるほど割合が高くなる。 ・また、40歳未満の世代の2割近くは関心がないと回答している。 	

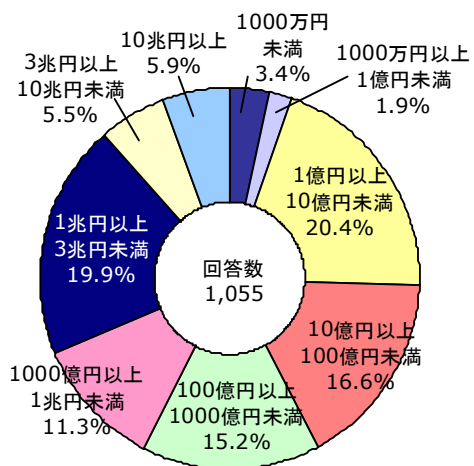
設問・本年度結果	概要・経年比較																																										
<p>問2 「3R」(スリーアール) という言葉の認知度</p>  <p>3Rの優先順位まで知っている 6.1%</p> <p>言葉の意味までは知っている 23.2%</p> <p>内容は知らないが、言葉は聞いたことがある 22.3%</p> <p>聞いたこともない 40.0%</p> <p>わからない 8.4%</p> <p>回答数 1,055</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・「優先順位まで知っている」、「言葉の意味までは知っている」の合計は 29.3% ・昨年度より 7%高くなっている*。 ● H19年調査：22.2% ・一方、「聞いたこともない」への回答が 40.0%と高い割合を占める。 																																										
問2×年齢	 <table border="1"> <thead> <tr> <th>年齢</th> <th>3Rの優先順位まで知っている</th> <th>言葉の意味までは知っている</th> <th>内容は知らないが、言葉は聞いたことがある</th> <th>聞いたこともない</th> <th>わからない</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>20～29歳</td> <td>8.8%</td> <td>29.3%</td> <td>21.0%</td> <td>31.5%</td> <td>9.4%</td> </tr> <tr> <td>30～39歳</td> <td>8.5%</td> <td>23.9%</td> <td>21.0%</td> <td>42.6%</td> <td>4.0%</td> </tr> <tr> <td>40～49歳</td> <td>5.6%</td> <td>23.6%</td> <td>16.9%</td> <td>46.6%</td> <td>7.3%</td> </tr> <tr> <td>50～59歳</td> <td>2.2%</td> <td>23.5%</td> <td>18.0%</td> <td>46.4%</td> <td>9.8%</td> </tr> <tr> <td>60～69歳</td> <td>4.4%</td> <td>21.4%</td> <td>25.6%</td> <td>42.3%</td> <td>8.3%</td> </tr> <tr> <td>70歳以上</td> <td>8.9%</td> <td>17.2%</td> <td>32.0%</td> <td>30.2%</td> <td>11.8%</td> </tr> </tbody> </table>	年齢	3Rの優先順位まで知っている	言葉の意味までは知っている	内容は知らないが、言葉は聞いたことがある	聞いたこともない	わからない	20～29歳	8.8%	29.3%	21.0%	31.5%	9.4%	30～39歳	8.5%	23.9%	21.0%	42.6%	4.0%	40～49歳	5.6%	23.6%	16.9%	46.6%	7.3%	50～59歳	2.2%	23.5%	18.0%	46.4%	9.8%	60～69歳	4.4%	21.4%	25.6%	42.3%	8.3%	70歳以上	8.9%	17.2%	32.0%	30.2%	11.8%
年齢	3Rの優先順位まで知っている	言葉の意味までは知っている	内容は知らないが、言葉は聞いたことがある	聞いたこともない	わからない																																						
20～29歳	8.8%	29.3%	21.0%	31.5%	9.4%																																						
30～39歳	8.5%	23.9%	21.0%	42.6%	4.0%																																						
40～49歳	5.6%	23.6%	16.9%	46.6%	7.3%																																						
50～59歳	2.2%	23.5%	18.0%	46.4%	9.8%																																						
60～69歳	4.4%	21.4%	25.6%	42.3%	8.3%																																						
70歳以上	8.9%	17.2%	32.0%	30.2%	11.8%																																						
概要	<ul style="list-style-type: none"> ・年齢別に見ると、30歳以上70歳未満の世代の4割以上が「聞いたこともない」と回答している。 																																										



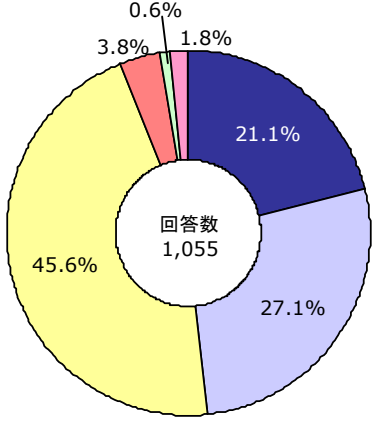
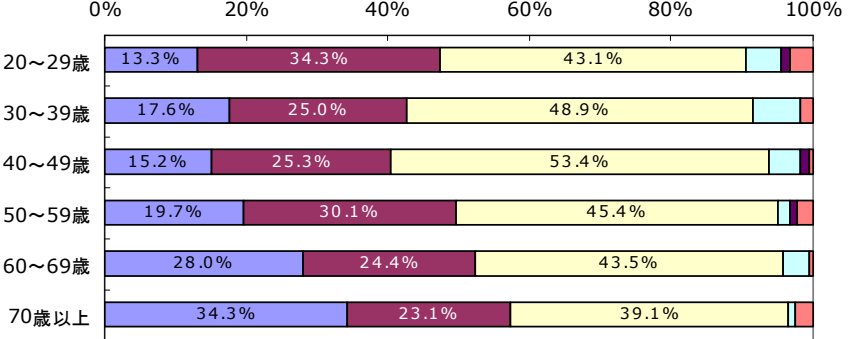
設問・本年度結果	概要・経年比較
<p>問 4 日常生活に伴って家庭や事務所から一日に排出されるごみの量は、国民一人あたり平均でどれくらいだと思いますか。</p>  <p>回答数 1,055</p> <ul style="list-style-type: none"> 0g以上～500g未満 3.8% 500g以上～1kg未満 32.5% 1kg以上～1.5kg未満 27.1% 1.5kg以上 15.5% わからない 21.1% 	<ul style="list-style-type: none"> ・H18年度の1人1日当たりのごみ排出量は1,116g ・該当する選択肢を選んだのは27.1% ・実際よりも少ないと考えている人の割合が36.3%と高い。 <p>※本年度が初めての調査のため、経年比較なし</p>

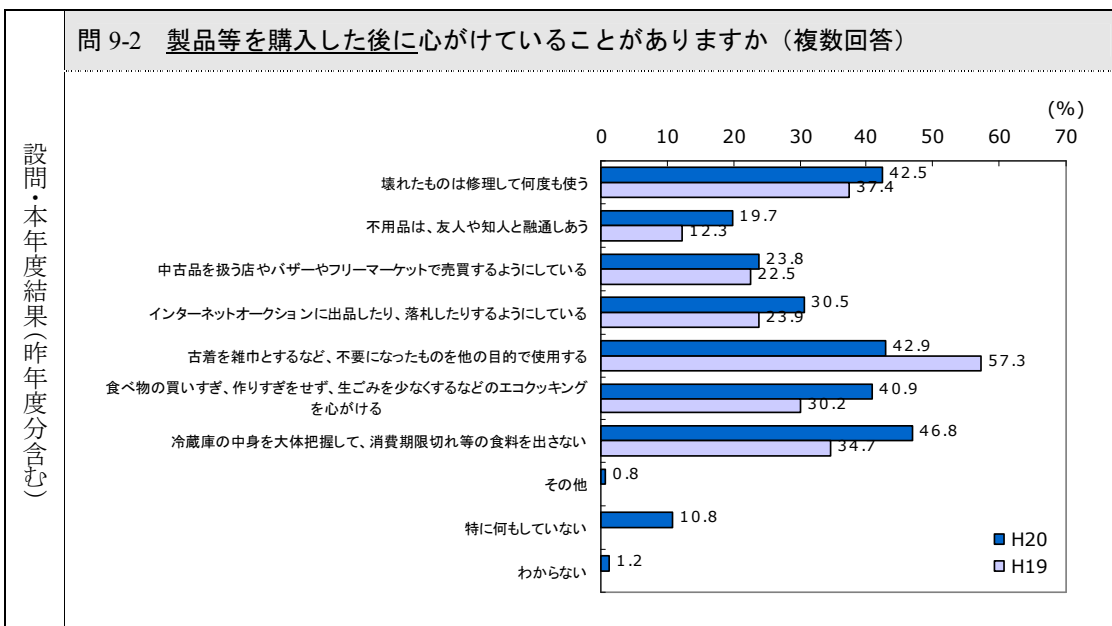
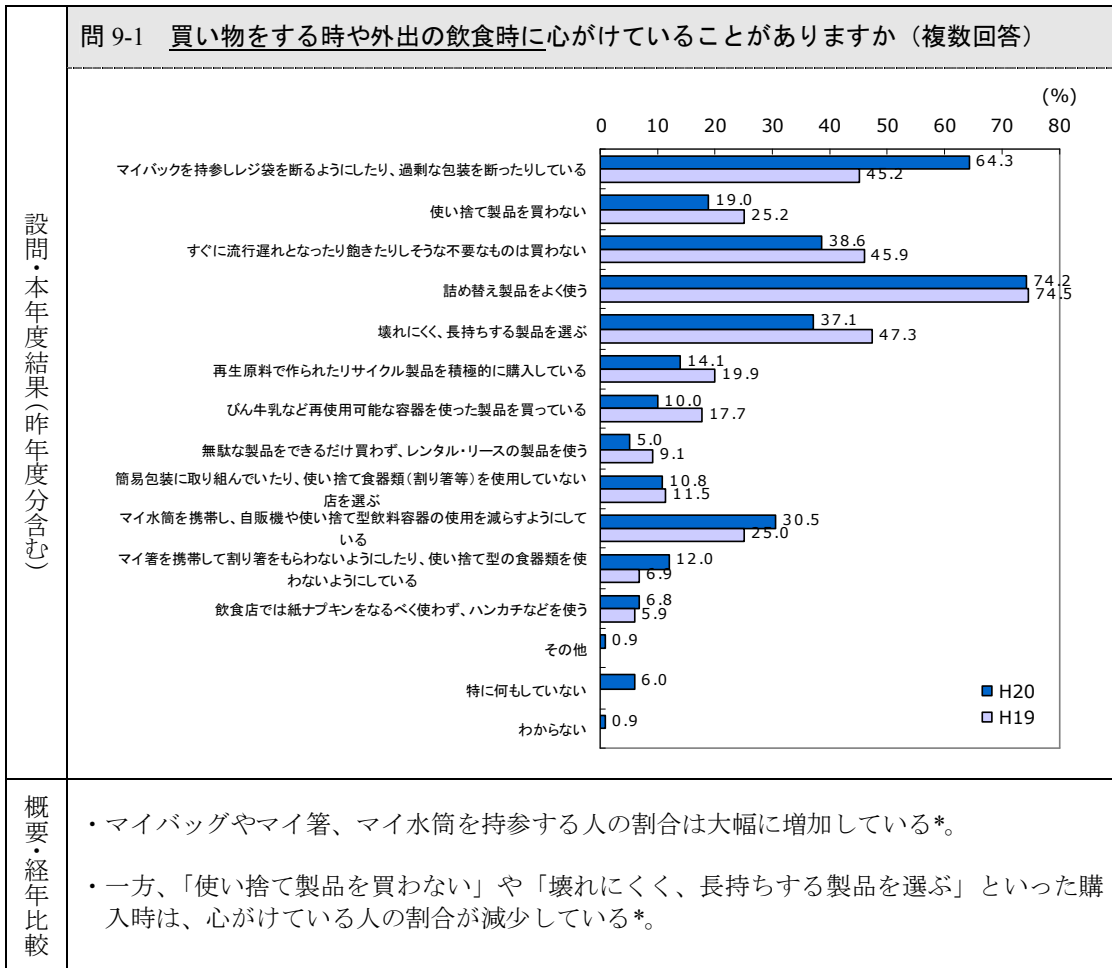
設問・本年度結果	概要・経年比較
<p>問 5 日常生活に伴って家庭や事務所から一日に排出されるごみの量は、国民一人あたり平均で3年前と比べて、どれくらい変化していると思いますか。</p>  <p>回答数 1,055</p> <ul style="list-style-type: none"> 0g以上～10g未満 増えた 3.2% 10g以上～50g未満 増えた 7.1% 50g以上～100g未満 増えた 12.5% 100g以上 増えた 33.5% 0g以上～10g未満 減った 2.8% 10g以上～50g未満 減った 5.6% 50g以上～100g未満 減った 2.9% 100g以上 減った 2.6% わからない 20.8% 変わらない 20.8% 	<ul style="list-style-type: none"> ・1人1日当たりのごみ排出量はH15年1,163g、H18年1,116g ・該当する選択肢を選んだのは5.6% ・実際は減少傾向にあるものの、増加したと考えている人の割合が56.3%と半数以上を占めている。 <p>※本年度が初めての調査のため、経年比較なし</p>

設問・本年度結果	概要・経年比較
<p>問 6 日常生活に伴って家庭や事務所から一年間に排出されるごみ（ペットボトル、新聞紙、空き缶、空き瓶などの資源ごみは含むが粗大ごみは除く）の中で、最も重量が多いものは何だと思えますか。</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ・H17年度の発生量のうち最も重量が多いのは紙の20,007千t(37.9%)、次いで厨芥の15,866千t(30.0%) ・該当する選択肢を選んだのは22.8% ・実際では2番目の割合を占める生ごみへの回答が最も多い。 ・24.2%の回答があったプラスチック類の実際の発生量は5,790千t(11.0%) <p>※本年度が初めての調査のため、経年比較なし</p>

設問・本年度結果	概要・経年比較
<p>問 7 日常生活に伴って家庭や事務所から排出されるごみの処理を行うために、全国で1年間にどれくらいの費用がかかっていると思えますか。</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ・H18年度のごみ処理事業経費は18,627億円 ・該当する選択肢を選んだのは19.9% ・実際よりも少ないと考えている人の割合が68.7%と高い。 <p>※本年度が初めての調査のため、経年比較なし</p>

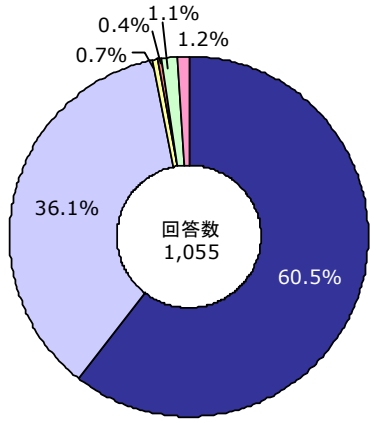
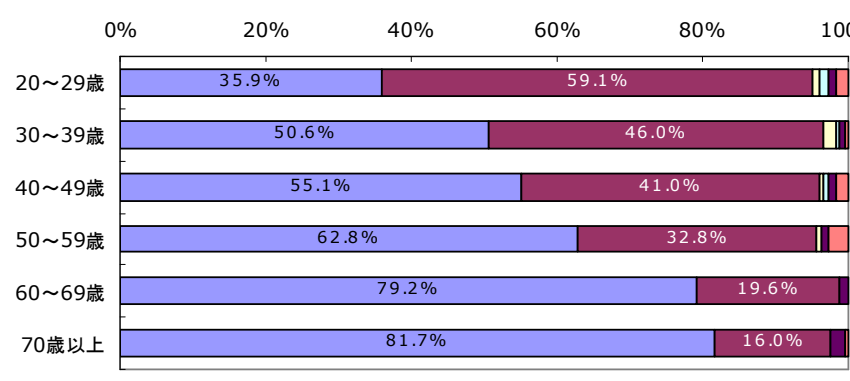
(2) 日常生活と循環型社会に対する意識

設問・本年度結果	<p>問8 日頃の暮らしの中でのごみとの関わり方について(あてはまるものを1つ選択)</p>  <ul style="list-style-type: none"> ■ いつもごみを少なくする配慮やリサイクルを心がけている □ 多少意識してごみを少なくする配慮やリサイクルを心がけている □ ごみは分別して捨てるなど、ある程度意識している ■ ごみの問題は深刻だと思いつながら、多くのものを買い、多くのものを捨てている ■ ごみのことは考えず、多くのものを買い、多くのものを捨てている ■ わからない
概要・経年比較	<ul style="list-style-type: none"> ・「いつも」「多少意識して」心がけている割合は48.2% ・昨年度よりは大幅に割合が低下しているが、これは、「ある程度意識している」という選択肢の文章を変更したことによるものと思われる。 <ul style="list-style-type: none"> ● H19年調査：79.3% ・昨年度調査の選択肢は「近所の人の目があるので、ごみは分別して捨てるなど、ある程度意識している」となっていたが、この設問のみ「近所の人の目」と理由が限定されてしまうため、今年度調査ではこの言葉を削除した。
問八×年齢	 <ul style="list-style-type: none"> ■ いつもごみを少なくする配慮やリサイクルを心がけている ■ 多少意識してごみを少なくする配慮やリサイクルを心がけている □ ごみは分別して捨てるなど、ある程度意識している □ ごみの問題は深刻だと思いつながら、多くのものを買い、多くのものを捨てている ■ ごみのことは考えず、多くのものを買い、多くのものを捨てている ■ わからない
概要	<ul style="list-style-type: none"> ・年齢別に見ると、50歳以上の約5割は「いつも」「多少意識して」と回答しており、20歳代も5割近い回答となっている。

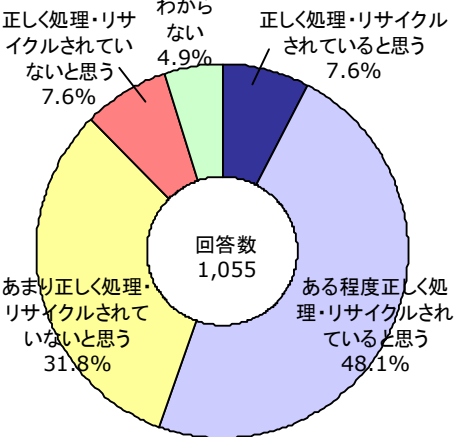


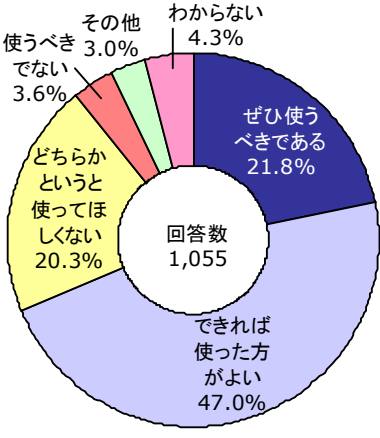
概要・経年比較	<ul style="list-style-type: none"> 不要品の他目的使用については割合が減少したが、それ以外の項目は前年度を上回っている*（バザーやフリーマーケットでの売買のみ有意性なし）。 特に、エコクッキングや食料の無駄をなくす取組の実施率が向上している*。
---------	---

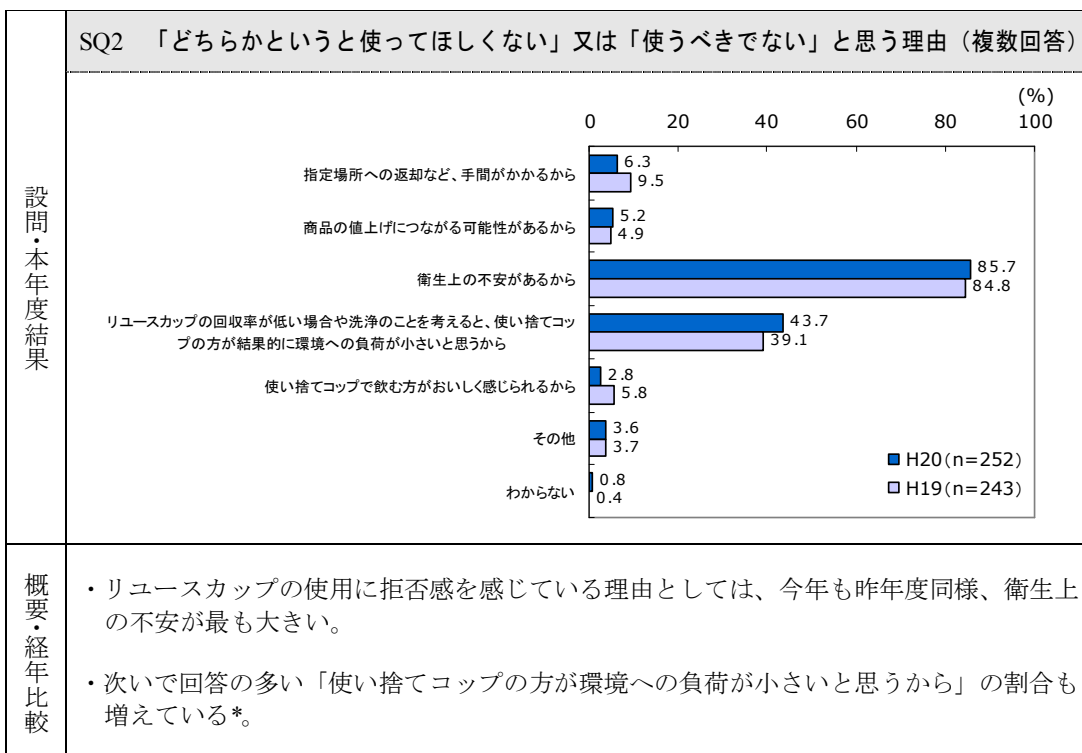
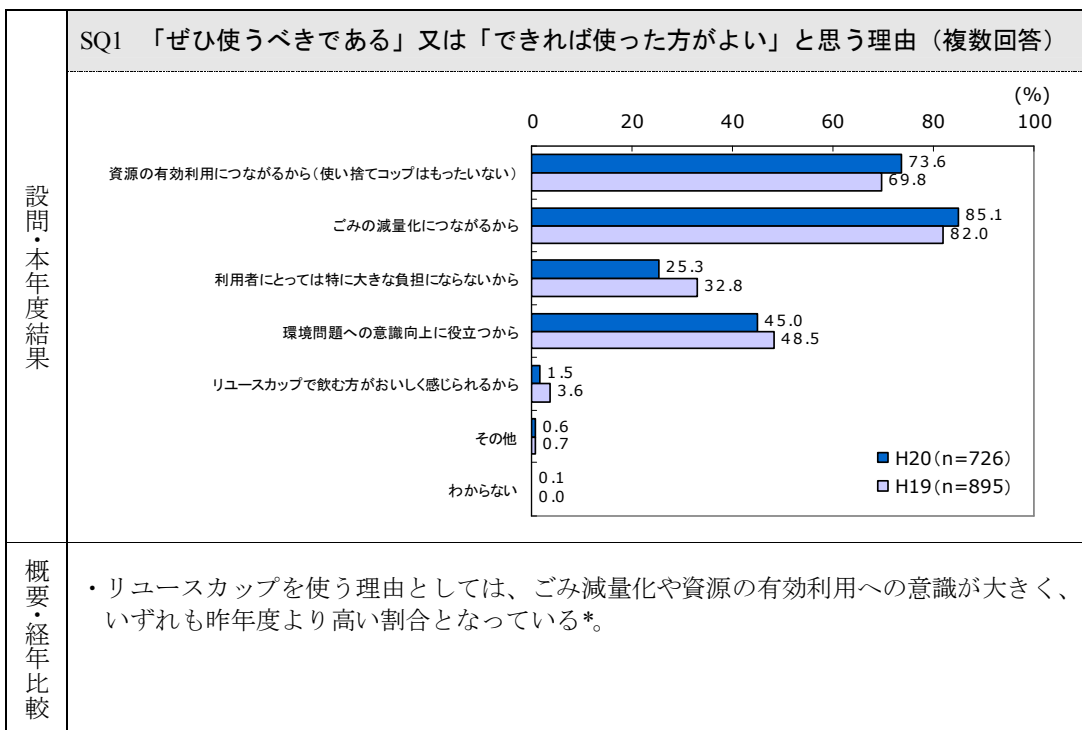
設問・本年度結果（昨年度分含む）	問 9-3 ものを捨てる時に心がけていることがありますか（複数回答）																							
	<table border="1"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>H20 (%)</th> <th>H19 (%)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>生ごみを堆肥にしている</td> <td>13.8</td> <td>13.0</td> </tr> <tr> <td>スーパーのトレイや携帯電話など、店頭回収に協力している</td> <td>41.4</td> <td>45.8</td> </tr> <tr> <td>リサイクルしやすいように、資源ごみとして出すびんなどは洗って出す</td> <td>67.8</td> <td>69.9</td> </tr> <tr> <td>家庭で出たごみはきちんと分別して、定められた場所に出す</td> <td>85.1</td> <td>86.1</td> </tr> <tr> <td>その他</td> <td>0.6</td> <td></td> </tr> <tr> <td>特に何もしていない</td> <td>6.3</td> <td></td> </tr> <tr> <td>わからない</td> <td>0.7</td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	項目	H20 (%)	H19 (%)	生ごみを堆肥にしている	13.8	13.0	スーパーのトレイや携帯電話など、店頭回収に協力している	41.4	45.8	リサイクルしやすいように、資源ごみとして出すびんなどは洗って出す	67.8	69.9	家庭で出たごみはきちんと分別して、定められた場所に出す	85.1	86.1	その他	0.6		特に何もしていない	6.3		わからない	0.7
項目	H20 (%)	H19 (%)																						
生ごみを堆肥にしている	13.8	13.0																						
スーパーのトレイや携帯電話など、店頭回収に協力している	41.4	45.8																						
リサイクルしやすいように、資源ごみとして出すびんなどは洗って出す	67.8	69.9																						
家庭で出たごみはきちんと分別して、定められた場所に出す	85.1	86.1																						
その他	0.6																							
特に何もしていない	6.3																							
わからない	0.7																							
概要・経年比較	<ul style="list-style-type: none"> 廃棄に関しては、昨年度調査とすべてほぼ同じ割合となっている。 																							

<p>設問・本年度結果</p>	<p>問 10 日頃のごみの分別状況について（あてはまるものを1つ選択）</p>  <p>回答数 1,055</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ 地域の分別区分に合わせて、徹底して分別している □ 地域の分別区分に合わせて、ある程度分別している □ 地域の分別区分は知っているが、分別していない ■ 地域の分別区分を知らないため、分別していない □ 住んでいる地域が分別収集していない ■ わからない 																																																	
<p>概要・経年比較</p>	<p>・ごみの分別状況については、「徹底して分別」との回答が 60.5%と高い割合を占め、「ある程度分別」まで含むと 96.6%となる。</p> <p>※本年度が初めての調査のため、経年比較なし</p>																																																	
<p>問十×年齢</p>	 <table border="1"> <thead> <tr> <th>年齢</th> <th>徹底して分別している</th> <th>ある程度分別している</th> <th>知っているが分別していない</th> <th>知らないため分別していない</th> <th>分別収集していない</th> <th>わからない</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>20～29歳</td> <td>35.9%</td> <td>59.1%</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>30～39歳</td> <td>50.6%</td> <td>46.0%</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>40～49歳</td> <td>55.1%</td> <td>41.0%</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>50～59歳</td> <td>62.8%</td> <td>32.8%</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>60～69歳</td> <td>79.2%</td> <td>19.6%</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>70歳以上</td> <td>81.7%</td> <td>16.0%</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <ul style="list-style-type: none"> ■ 地域の分別区分に合わせて、徹底して分別している ■ 地域の分別区分に合わせて、ある程度分別している □ 地域の分別区分は知っているが、分別していない □ 地域の分別区分を知らないため、分別していない ■ 住んでいる地域が分別収集していない ■ わからない 	年齢	徹底して分別している	ある程度分別している	知っているが分別していない	知らないため分別していない	分別収集していない	わからない	20～29歳	35.9%	59.1%					30～39歳	50.6%	46.0%					40～49歳	55.1%	41.0%					50～59歳	62.8%	32.8%					60～69歳	79.2%	19.6%					70歳以上	81.7%	16.0%				
年齢	徹底して分別している	ある程度分別している	知っているが分別していない	知らないため分別していない	分別収集していない	わからない																																												
20～29歳	35.9%	59.1%																																																
30～39歳	50.6%	46.0%																																																
40～49歳	55.1%	41.0%																																																
50～59歳	62.8%	32.8%																																																
60～69歳	79.2%	19.6%																																																
70歳以上	81.7%	16.0%																																																
<p>概要</p>	<p>・年齢が高くなるほど「徹底して分別」との回答割合が高くなり、70歳以上では8割を超えている。</p>																																																	

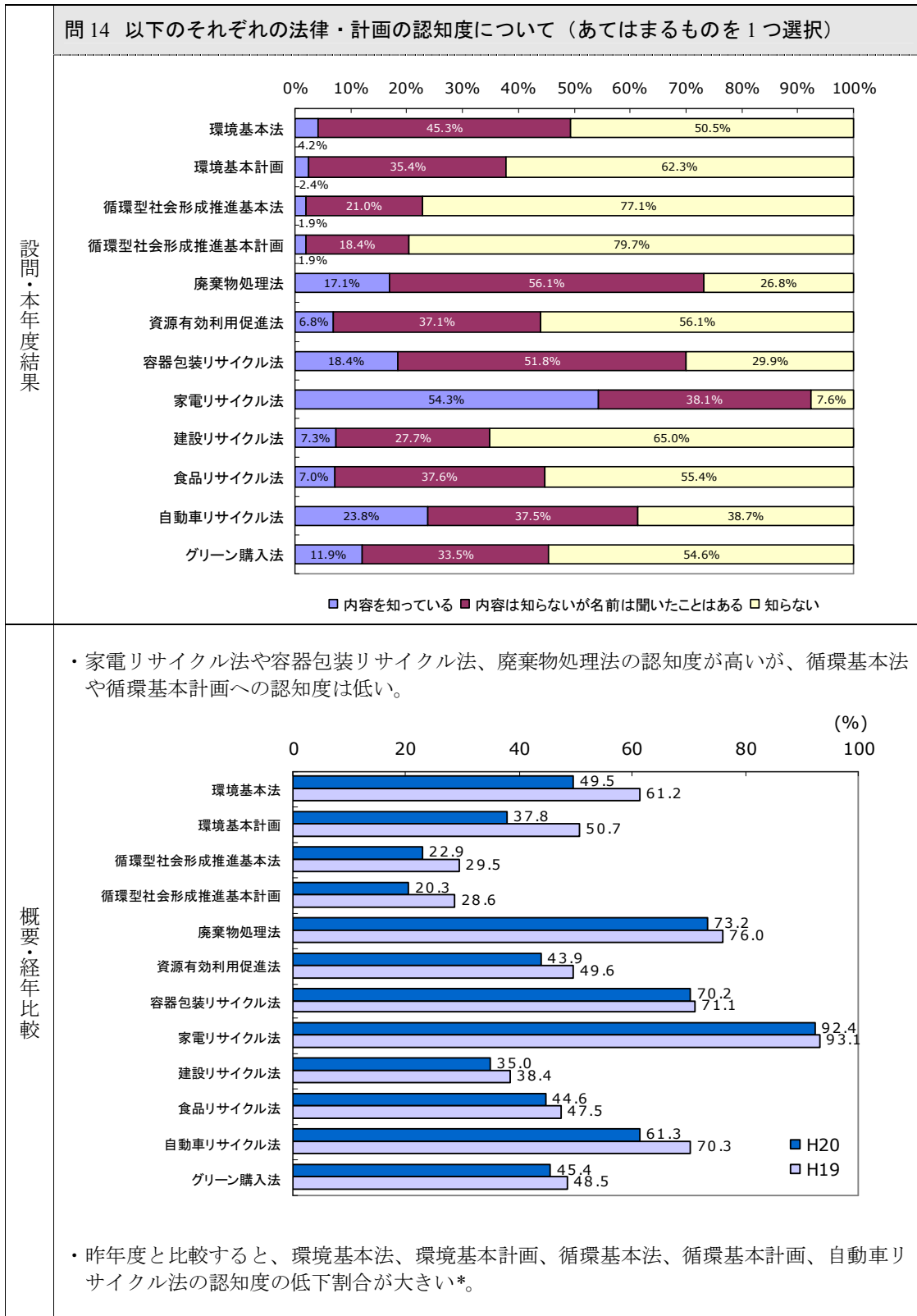
設問・本年度結果		概要・経年比較																																				
<p>問 11 分別したごみがどのように処理・リサイクルされるかご存知ですか。</p>		<p>・「知っている」「ある程度知っている」の割合が 58.2%と半数以上を占める。</p> <p>・一方で、「あまり知らない」との回答も 36.8%と高い割合となっている。</p> <p>※本年度が初めての調査のため、経年比較なし</p>																																				
<p>回答数 1,055</p> <table border="1"> <caption>Donut Chart Data</caption> <thead> <tr> <th>回答内容</th> <th>割合</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>知っている</td> <td>7.0%</td> </tr> <tr> <td>ある程度知っている</td> <td>51.2%</td> </tr> <tr> <td>あまり知らない</td> <td>36.8%</td> </tr> <tr> <td>まったく知らない</td> <td>5.0%</td> </tr> </tbody> </table>		回答内容	割合	知っている	7.0%	ある程度知っている	51.2%	あまり知らない	36.8%	まったく知らない	5.0%																											
回答内容	割合																																					
知っている	7.0%																																					
ある程度知っている	51.2%																																					
あまり知らない	36.8%																																					
まったく知らない	5.0%																																					
問十一×年齢	<table border="1"> <caption>Stacked Bar Chart Data</caption> <thead> <tr> <th>年齢</th> <th>知っている</th> <th>ある程度知っている</th> <th>あまり知らない</th> <th>まったく知らない</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>20～29歳</td> <td>6.1%</td> <td>37.6%</td> <td>45.9%</td> <td>10.5%</td> </tr> <tr> <td>30～39歳</td> <td>8.0%</td> <td>40.9%</td> <td>46.6%</td> <td>4.5%</td> </tr> <tr> <td>40～49歳</td> <td>3.9%</td> <td>57.9%</td> <td>33.1%</td> <td>5.1%</td> </tr> <tr> <td>50～59歳</td> <td>4.4%</td> <td>53.6%</td> <td>38.3%</td> <td>3.8%</td> </tr> <tr> <td>60～69歳</td> <td>7.7%</td> <td>60.7%</td> <td>29.2%</td> <td>2.4%</td> </tr> <tr> <td>70歳以上</td> <td>12.4%</td> <td>57.4%</td> <td>26.6%</td> <td>3.6%</td> </tr> </tbody> </table> <p>□ 知っている ■ ある程度知っている □ あまり知らない □ まったく知らない</p>			年齢	知っている	ある程度知っている	あまり知らない	まったく知らない	20～29歳	6.1%	37.6%	45.9%	10.5%	30～39歳	8.0%	40.9%	46.6%	4.5%	40～49歳	3.9%	57.9%	33.1%	5.1%	50～59歳	4.4%	53.6%	38.3%	3.8%	60～69歳	7.7%	60.7%	29.2%	2.4%	70歳以上	12.4%	57.4%	26.6%	3.6%
年齢	知っている	ある程度知っている	あまり知らない	まったく知らない																																		
20～29歳	6.1%	37.6%	45.9%	10.5%																																		
30～39歳	8.0%	40.9%	46.6%	4.5%																																		
40～49歳	3.9%	57.9%	33.1%	5.1%																																		
50～59歳	4.4%	53.6%	38.3%	3.8%																																		
60～69歳	7.7%	60.7%	29.2%	2.4%																																		
70歳以上	12.4%	57.4%	26.6%	3.6%																																		
概要	<p>・ 40歳以上では5割以上が「ある程度知っている」と回答しているが、20歳代、30歳代では「あまり知らない」への回答が最も多い。</p>																																					

設問・本年度結果	概要・経年比較
<p>問 12 分別したごみは正しく処理・リサイクルされていると思いますか。</p>  <p>回答数 1,055</p> <ul style="list-style-type: none"> ある程度正しく処理・リサイクルされていると思う 48.1% あまり正しく処理・リサイクルされていないと思う 31.8% 正しく処理・リサイクルされていると思う 7.6% 正しく処理・リサイクルされていないと思う 7.6% わからない 4.9% 	<p>概要・経年比較</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「正しく」「ある程度正しく」リサイクルされているとの回答が 55.7%を占める。 ・一方、リサイクルされていないと考えている割合も 39.4%と高い。 <p>※本年度が初めての調査のため、経年比較なし</p>

設問・本年度結果	概要・経年比較
<p>問 13 イベント等において、使い捨てコップの代わりに洗って繰り返し再利用できるプラスチック製のカップ（リユースカップ）を使うことについて（考えに近いものを選択）</p>  <p>回答数 1,055</p> <ul style="list-style-type: none"> できれば使った方がよい 47.0% ぜひ使うべきである 21.8% どちらかという使ってほしくない 20.3% わからない 4.3% 使うべきでない 3.6% 	<p>概要・経年比較</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「ぜひ使うべきである」「できれば使った方がよい」への回答が 68.8% ・昨年度よりも割合は低下した*。 ● H19年調査：72.6% ・「どちらかという使ってほしくない」という回答が 20.3% ・昨年度よりも割合は高くなった*。 ● H19年調査：16.1%



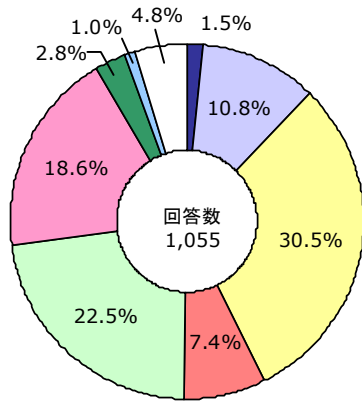
(3) 循環型社会形成のための施策に対する意識



問 十 四 × 年 齢	<p><循環型社会形成推進基本法></p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>年齢</th> <th>知っている</th> <th>内容は知らないが名前は聞いたことはある</th> <th>知らない</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>20～29歳</td> <td>0.6%</td> <td>14.4%</td> <td>85.1%</td> </tr> <tr> <td>30～39歳</td> <td>1.1%</td> <td>13.6%</td> <td>85.2%</td> </tr> <tr> <td>40～49歳</td> <td>0.6%</td> <td>18.0%</td> <td>81.5%</td> </tr> <tr> <td>50～59歳</td> <td>1.1%</td> <td>18.0%</td> <td>80.9%</td> </tr> <tr> <td>60～69歳</td> <td>3.0%</td> <td>28.6%</td> <td>68.5%</td> </tr> <tr> <td>70歳以上</td> <td>5.3%</td> <td>34.9%</td> <td>59.8%</td> </tr> </tbody> </table> <p>□ 内容を知っている ■ 内容は知らないが名前は聞いたことはある □ 知らない</p>	年齢	知っている	内容は知らないが名前は聞いたことはある	知らない	20～29歳	0.6%	14.4%	85.1%	30～39歳	1.1%	13.6%	85.2%	40～49歳	0.6%	18.0%	81.5%	50～59歳	1.1%	18.0%	80.9%	60～69歳	3.0%	28.6%	68.5%	70歳以上	5.3%	34.9%	59.8%
	年齢	知っている	内容は知らないが名前は聞いたことはある	知らない																									
20～29歳	0.6%	14.4%	85.1%																										
30～39歳	1.1%	13.6%	85.2%																										
40～49歳	0.6%	18.0%	81.5%																										
50～59歳	1.1%	18.0%	80.9%																										
60～69歳	3.0%	28.6%	68.5%																										
70歳以上	5.3%	34.9%	59.8%																										
<p><循環型社会形成推進基本計画></p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>年齢</th> <th>知っている</th> <th>内容は知らないが名前は聞いたことはある</th> <th>知らない</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>20～29歳</td> <td>1.7%</td> <td>10.5%</td> <td>87.8%</td> </tr> <tr> <td>30～39歳</td> <td>1.1%</td> <td>11.4%</td> <td>87.5%</td> </tr> <tr> <td>40～49歳</td> <td>0.6%</td> <td>18.5%</td> <td>80.9%</td> </tr> <tr> <td>50～59歳</td> <td>2.2%</td> <td>14.2%</td> <td>83.6%</td> </tr> <tr> <td>60～69歳</td> <td>1.2%</td> <td>26.8%</td> <td>72.0%</td> </tr> <tr> <td>70歳以上</td> <td>4.7%</td> <td>30.2%</td> <td>65.1%</td> </tr> </tbody> </table> <p>□ 内容を知っている ■ 内容は知らないが名前は聞いたことはある □ 知らない</p>	年齢	知っている	内容は知らないが名前は聞いたことはある	知らない	20～29歳	1.7%	10.5%	87.8%	30～39歳	1.1%	11.4%	87.5%	40～49歳	0.6%	18.5%	80.9%	50～59歳	2.2%	14.2%	83.6%	60～69歳	1.2%	26.8%	72.0%	70歳以上	4.7%	30.2%	65.1%	
年齢	知っている	内容は知らないが名前は聞いたことはある	知らない																										
20～29歳	1.7%	10.5%	87.8%																										
30～39歳	1.1%	11.4%	87.5%																										
40～49歳	0.6%	18.5%	80.9%																										
50～59歳	2.2%	14.2%	83.6%																										
60～69歳	1.2%	26.8%	72.0%																										
70歳以上	4.7%	30.2%	65.1%																										
概 要	<p>・循環基本法及び循環基本計画については、60歳未満の8割以上が「知らない」と回答している。</p>																												

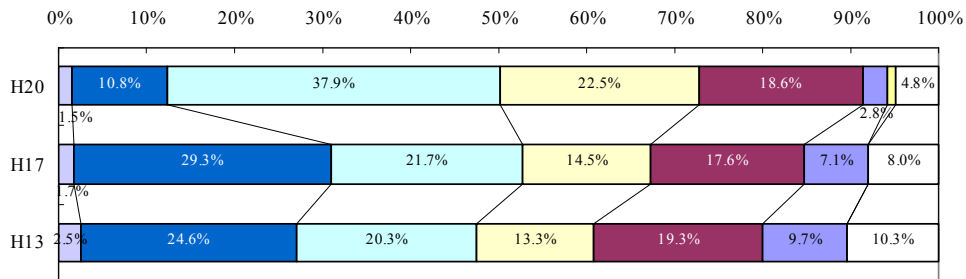
問 15 循環型社会を形成する施策を進めていくことについて（考えに近いものを1つ選択）

設問・本年度結果



- 現在の生活水準（物質的な豊かさや便利さ）を落とすことであり、受け入れられない
- 現在の生活水準を落とさず、大量生産、大量消費は維持しながら、廃棄物を大量にリユースやリサイクルすればよい
- 天然資源がなくなっているのであれば、循環型社会への移行はやむを得ない
- ごみの最終処分場（埋立地）の寿命が短くなっているのであれば、循環型社会への移行はやむを得ない
- 価値観は変わりつつあり、生活水準が落ちることにはつながらないため、循環型社会に移行するべきである
- 現在の生活水準が多少落ちることになっても、循環型社会に移行するべきである
- 循環型社会とは、どのような社会かわからない
- その他
- わからない

・「循環型社会への移行はやむを得ない」との回答が37.9%、「移行するべきである」との回答が41.0%、合わせると79.0%となり、8割近い人が循環型社会への移行を受け入れる傾向にあることがわかる。



概要・経年比較

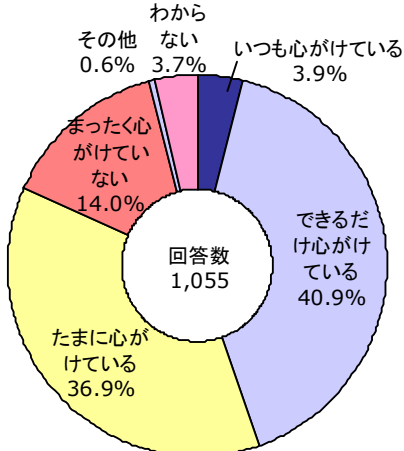
- 現在の生活水準（物質的な豊かさや便利さ）を落とすことであり、受け入れられない
- 現在の生活水準を落とさず、大量生産、大量消費は維持しながら、廃棄物を大量にリユースやリサイクルすればよい
- 廃棄物の処理場や天然資源がなくなってくるのであれば、循環型社会への移行はやむを得ない
- 価値観は変わりつつあり、生活水準が落ちることにはつながらないため、循環型社会に移行するべきである
- 現在の生活水準が多少落ちることになっても、循環型社会に移行するべきである
- 循環型社会とは、どのような社会かわからない
- その他
- わからない

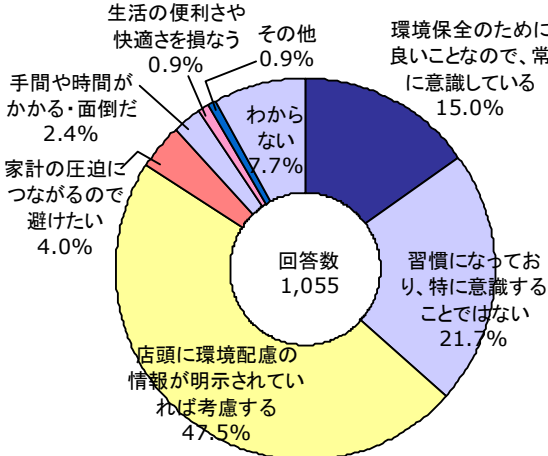
・昨年度調査は複数選択式で回答を得ており、そのまま比較することはできないため、同様に単一選択式で調査された平成13年度^{※1}、平成17年度^{※2}の結果と比較すると、循環型社会への移行を受け入れる傾向は顕著に大きくなっている*。

※1 循環型社会の形成に関する世論調査（内閣府調査）

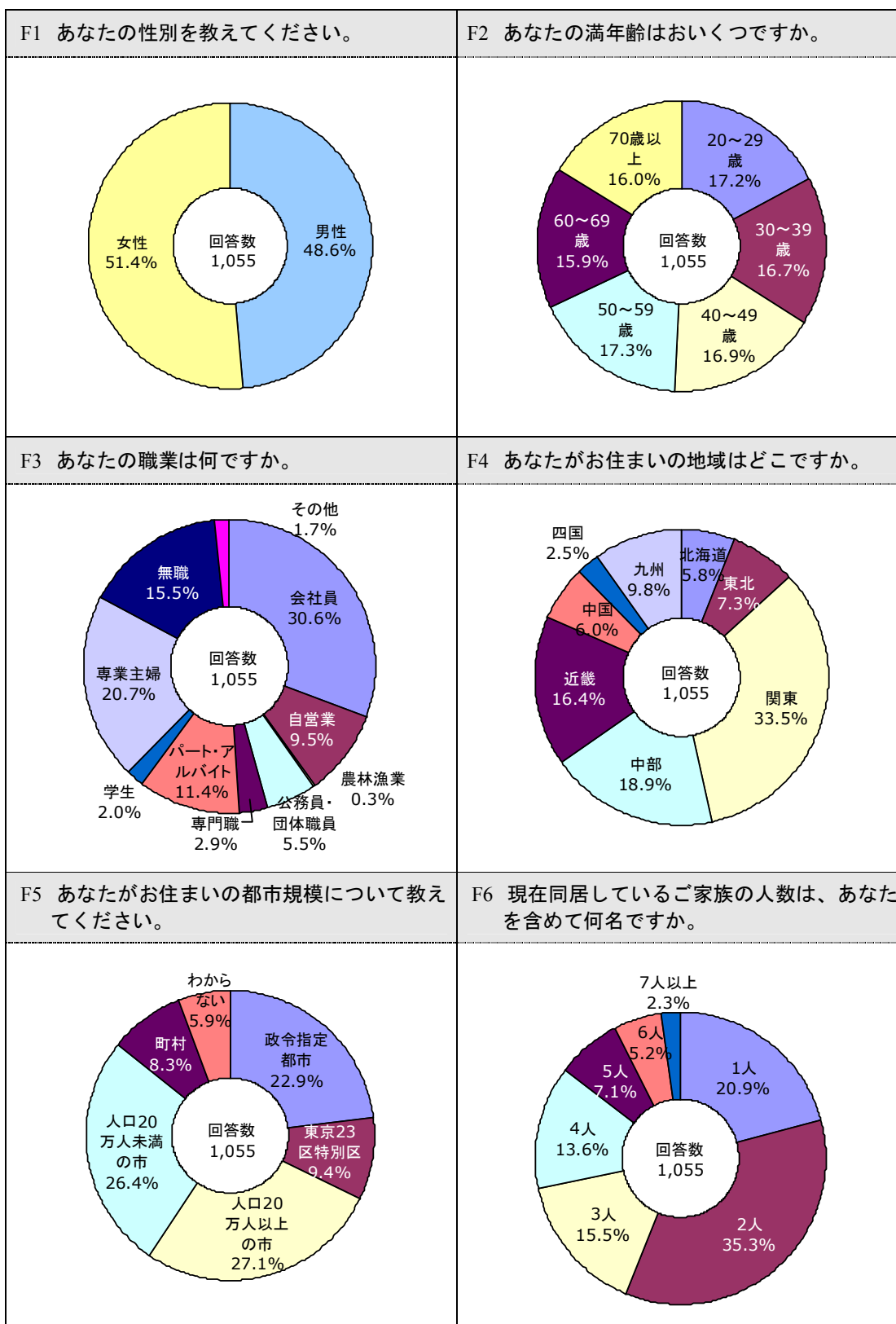
※2 環境問題に関する世論調査（内閣府調査）

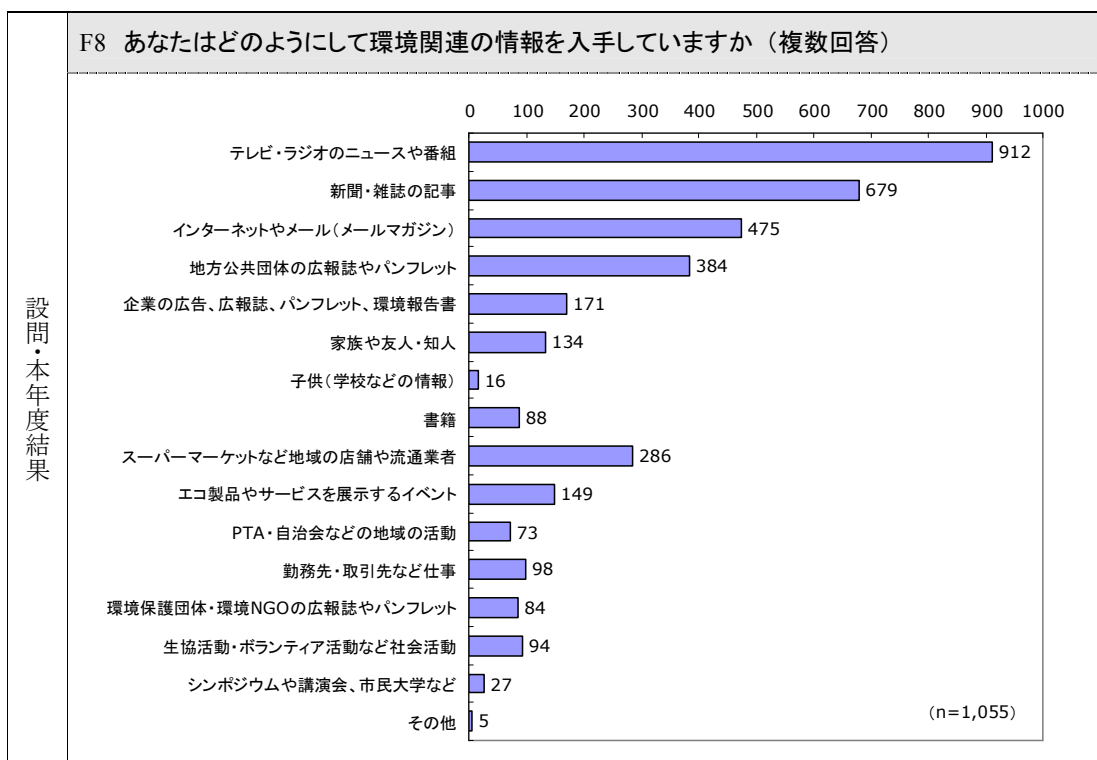
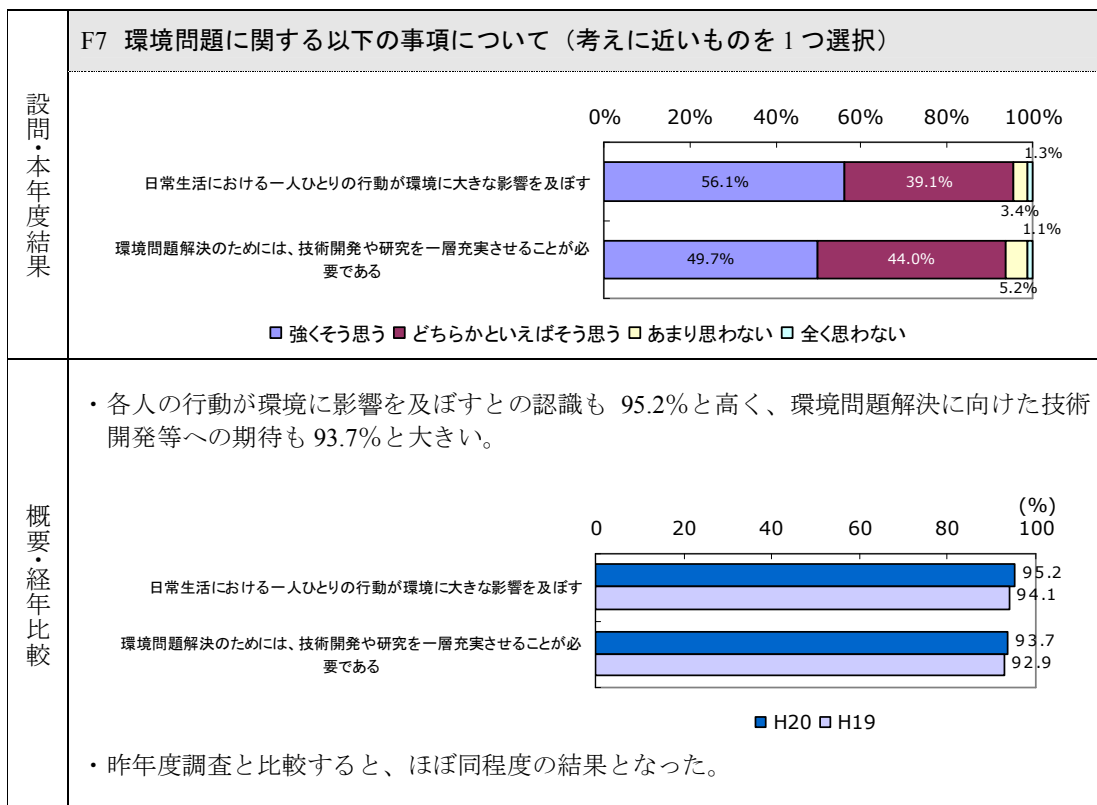
(4) グリーン購入に対する意識

設問・本年度調査結果	概要・経年比較
<p>問 16 あなたは、製品等を購入する際に、その製品の素材に再生（リサイクル）された原料が用いられている、不要になった後リサイクルがしやすい、エコマークがあるなど、環境にやさしい製品を買うように心がけていますか。</p>  <p>回答数 1,055</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・「いつも」、「できるだけ」心がけている人の割合は 44.8% ・昨年度とほぼ同程度である。 <ul style="list-style-type: none"> ● H19 年調査：47.2% ・一方、「まったく心がけていない」への回答が 14.0% ・昨年度よりも割合が高くなった*。 <ul style="list-style-type: none"> ● H19 年調査：11.0%

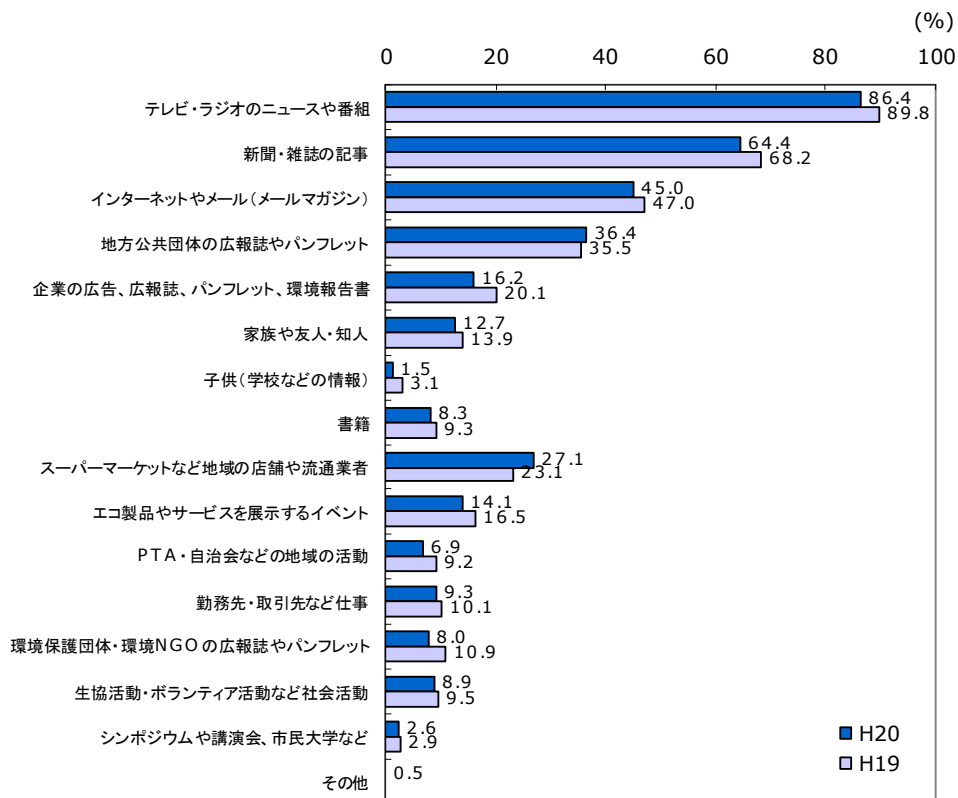
設問・本年度調査結果	概要・経年比較
<p>問 17 物を買うときの環境への配慮意識について（考えに近いものを1つ選択）</p>  <p>回答数 1,055</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・「常に意識している」、「特に意識することではない」への回答が 36.7% ・昨年度とほぼ同程度である <ul style="list-style-type: none"> ● H19 年調査：37.2% ・一方、「環境配慮の情報が明示されていれば考慮する」への回答が 47.5%と高い割合を占める。

(5) 回答者属性





- 環境関連の情報の入手先としては、「テレビ・ラジオのニュースや番組」や「新聞・雑誌の記事」といったマスメディアが最も多い。



- 情報源としては、昨年度とほぼ同じ傾向と考えられるが、「スーパーマーケットなど地域の店舗や流通業者」への回答が増えている*。

(参考) H19 年度調査との有意差検定結果

設問	選択肢	回答率(%)		検定値*	有意水準	
		H19 年度	H20 年度		5%	10%
Q1	非常に関心がある	20.5	17.8	1.641	無	無
	ある程度関心がある	65.4	68.3	1.477	無	無
	あまり関心がない	11.1	11.2	0.049	無	無
	まったく関心がない	1.4	1.3	0.109	無	無
	「非常に」+「ある程度」	86.0	86.2	0.140	無	無
Q2	3R の優先順位まで知っている	4.6	6.1	1.533	無	無
	言葉の意味までは知っている	17.5	23.2	3.381	有	有
	内容は知らないが、言葉は聞いたことがある	28.6	22.3	3.437	有	有
	聞いたこともない	40.0	40.0	0.008	無	無
	「優先順位」+「言葉の意味」	22.2	29.3	3.902	有	有
Q3	ごみの最終処分場(埋立地)の寿命が短くなってきている	58.2	67.6	4.622	有	有
	野山や河原等への不法投棄が社会問題になっている	85.7	88.7	2.138	有	有
	不適正なごみ処理に伴い有害物質が発生している	71.0	70.0	0.560	無	無
	不適正に廃棄された日用品の一部が漂流し、沿岸部に漂着することで景観を損ねたり鳥などに害を与えている	60.2	66.4	3.072	有	有
	稲わらや間伐材など、資源として利用できるものを活かしてきいていない	33.2	39.0	2.863	有	有
	将来リサイクルするとの名目で、私有地に廃タイヤやパチンコ台などが放置されている	49.6	41.5	3.865	有	有
	テレビやパソコンなどの身近な使用家電が海外へ輸出され、その一部が不適正に処理されることによる環境汚染が生じている	33.0	45.9	6.318	有	有
	ペットボトル、古紙などが海外に輸出されている	34.7	47.1	6.048	有	有
	ごみ処理施設(焼却施設、埋立地等)の計画や建設で地域間の対立や紛争が起きることが多い	70.0	62.6	3.785	有	有
Q8	いつもごみを少なくする配慮やリサイクルを心がけている	25.6	21.1	2.490	有	有
	多少意識してごみを少なくする配慮やリサイクルを心がけている	53.7	27.1	12.884	有	有
	ごみは分別して捨てるなど、ある程度意識している	11.9	45.6	18.032	有	有
	ごみの問題は深刻だと思いつつも、多くのものを買い、多くのものを捨てている	7.0	3.8	3.332	有	有
	ごみのことは考えず、多くのものを買い、多くのものを捨てている	0.6	0.6	0.246	無	無
Q9-1	マイバックを持参しレジ袋を断るようしたり、過剰な包装を断ったりしている	45.2	64.3	9.119	有	有
	使い捨て製品を買わない	25.2	19.0	3.574	有	有
	すぐに流行遅れとなったり飽きたりしそうな不要なものは買わない	45.9	38.6	3.531	有	有
	詰め替え製品をよく使う	74.5	74.2	0.154	無	無
	壊れにくく、長持ちする製品を選ぶ	47.3	37.1	4.936	有	有
	再生原料で作られたリサイクル製品を積極的に購入している	19.9	14.1	3.646	有	有
	びん牛乳など再使用可能な容器を使った製品を買っている	17.7	10.0	5.303	有	有
	無駄な製品をできるだけ買わず、レンタル・リースの製品を使う	9.1	5.0	3.755	有	有
	簡易包装に取り組んでいたり、使い捨て食器類(割り箸等)を使用していない店を選ぶ	11.5	10.8	0.525	無	無
	マイ水筒を携帯し、自販機や使い捨て型飲料容器の使用を減らすようにしている	25.0	30.5	2.946	有	有
	マイ箸を携帯して割り箸をもらわないようしたり、使い捨て型の食器類を使わないようにしている	6.9	12.0	4.223	有	有
	飲食店では紙ナプキンをなるべく使わず、ハンカチなどを使う	5.9	6.8	0.905	無	無
Q9-2	壊れたものは修理して何度も使う	37.4	42.5	2.467	有	有
	不用品は、友人や知人と融通しあう	12.3	19.7	4.857	有	有
	中古品を扱う店やバザーやフリーマーケットで売買するようにしている	22.5	23.8	0.731	無	無
	インターネットオークションに出品したり、落札したりするようにしている	23.9	30.5	3.557	有	有
	古着を雑巾とするなど、不要になったものを他の目的で使用する	57.3	42.9	6.848	有	有
	食べ物の買いすぎ、作りすぎをせず、生ごみを少なくするなどのエコッキングを心がける	30.2	40.9	5.321	有	有
	冷蔵庫の中身を大体把握して、消費期限切れ等の食料を出さない	34.7	46.8	5.893	有	有

設問	選択肢	回答率(%)		検定値*	有意水準	
		H19年度	H20年度		5%	10%
Q9-3	生ごみを堆肥にしている	13.0	13.8	0.587	無	無
	スーパーのトレイや携帯電話など、店頭回収に協力している	45.8	41.4	2.104	有	有
	リサイクルしやすいように、資源ごみとして出すびんなどは洗って出す	69.9	67.8	1.096	無	無
	家庭で出たごみはきちんと分別して、定められた場所に出す	86.1	85.1	0.667	無	無
Q13	ぜひ使うべきである	21.3	21.8	0.263	無	無
	できれば使った方がよい	51.3	47.0	2.043	有	有
	どちらかというと思ってほしくない	16.1	20.3	2.613	有	有
	使うべきでない	3.7	3.6	0.065	無	無
	「ぜひ」+「できれば」	72.6	68.8	2.010	有	有
SQ1	資源の有効利用につながるから(使い捨てコップはもったいない)	69.8	73.6	2.139	有	有
	ごみの減量化につながるから	82.0	85.1	2.164	有	有
	利用者にとっては特に大きな負担にならないから	32.8	25.3	4.257	有	有
	環境問題への意識向上に役立つから	48.5	45.0	1.799	無	有
	リユースカップで飲む方がおいしく感じられるから	3.6	1.5	3.230	有	有
SQ2	指定場所への返却など、手間がかかるから	9.5	6.3	2.932	有	有
	商品の値上げにつながる可能性があるから	4.9	5.2	0.263	無	無
	衛生上の不安があるから	84.8	85.7	0.688	無	無
	リユースカップの回収率が低い場合や洗浄のことを考えると、使い捨てコップの方が結果的に環境への負荷が小さいと思うから	39.1	43.7	2.414	有	有
	使い捨てコップで飲む方がおいしく感じられるから	5.8	2.8	3.672	有	有
Q14	環境基本法	61.2	49.5	5.616	有	有
	環境基本計画	50.7	37.8	6.185	有	有
	循環型社会形成推進基本法	29.5	22.9	3.567	有	有
	循環型社会形成推進基本計画	28.6	20.3	4.584	有	有
	廃棄物処理法	76.0	73.2	1.536	無	無
	資源有効利用促進法	49.6	43.9	2.723	有	有
	容器包装リサイクル法	71.1	70.2	0.471	無	無
	家電リサイクル法	93.1	92.4	0.645	無	無
	建設リサイクル法	38.4	35.0	1.680	無	有
	食品リサイクル法	47.5	44.6	1.387	無	無
	自動車リサイクル法	70.3	61.3	4.534	有	有
グリーン購入法	48.5	45.4	1.481	無	無	
Q16	いつも心がけている	4.9	3.9	1.142	無	無
	できるだけ心がけている	42.3	40.9	0.648	無	無
	たまに心がけている	39.0	36.9	1.066	無	無
	まったく心がけていない	11.0	14.0	2.161	有	有
	「いつも」+「できるだけ」	47.2	44.8	1.112	無	無
Q17	環境保全のために良いことなので、常に意識している	17.5	15.0	1.648	無	有
	習慣になっており、特に意識することではない	19.7	21.7	1.168	無	無
	店頭で環境配慮の情報が明示されていれば考慮する	48.7	47.5	0.579	無	無
	家計の圧迫につながるのを避けたい	4.8	4.0	0.937	無	無
	手間や時間がかかる・面倒だ	2.2	2.4	0.285	無	無
	生活の便利さや快適さを損なう	0.9	0.9	0.137	無	無
	「常に意識」+「意識することではない」	37.3	36.7	0.283	無	無

設問	選択肢	回答率(%)		検定値*	有意水準	
		H19年度	H20年度		5%	10%
F7	日常生活における一人ひとりの行動が環境に大きな影響を及ぼす	94.1	95.2	1.161	無	無
	環境問題解決のためには、技術開発や研究を一層充実させることが必要である	92.9	93.7	0.761	無	無
F8	テレビ・ラジオのニュースや番組	89.8	86.4	2.484	有	有
	新聞・雑誌の記事	68.2	64.4	1.938	無	有
	インターネットやメール(メールマガジン)	47.0	45.0	0.945	無	無
	地方公共団体の広報誌やパンフレット	35.5	36.4	0.446	無	無
	企業の広告、広報誌、パンフレット、環境報告書	20.1	16.2	2.399	有	有
	家族や友人・知人	13.9	12.7	0.840	無	無
	子供(学校などの情報)	3.1	1.5	2.482	有	有
	書籍	9.3	8.3	0.804	無	無
	スーパーマーケットなど地域の店舗や流通業者	23.1	27.1	2.209	有	有
	エコ製品やサービスを展示するイベント	16.5	14.1	1.570	無	無
	PTA・自治会などの地域の活動	9.2	6.9	1.987	有	有
	勤務先・取引先など仕事	10.1	9.3	0.652	無	無
	環境保護団体・環境NGOの広報誌やパンフレット	10.9	8.0	2.384	有	有
	生協活動・ボランティア活動など社会活動	9.5	8.9	0.486	無	無
	シンポジウムや講演会、市民大学など	2.9	2.6	0.497	無	無

設問	選択肢	回答率(%)		検定値*	有意水準	
		過年度	H20年度		5%	10%
H17年度調査との比較						
Q15	現在の生活水準(物質的な豊かさや便利さ)を落とすことであり、受け入れられない	1.7	1.5	0.377	無	無
	現在の生活水準を落とさず、大量生産、大量消費は維持しながら、廃棄物を大量にリユースやリサイクルすればよい	29.3	10.8	11.497	有	有
	廃棄物の処理場や天然資源がなくなってくるのであれば、循環型社会への移行はやむを得ない	21.7	37.9	9.455	有	有
	価値観は変わりつつあり、生活水準が落ちることにはつながらないため、循環型社会に移行するべきである	14.5	22.5	5.476	有	有
	現在の生活水準が多少落ちることになっても、循環型社会に移行するべきである	17.6	18.6	0.664	無	無
	循環型社会とは、どのような社会かわからない	7.1	2.8	4.829	有	有
H13年度調査との比較						
Q15	現在の生活水準(物質的な豊かさや便利さ)を落とすことであり、受け入れられない	2.5	1.5	1.878	無	有
	現在の生活水準を落とさず、大量生産、大量消費は維持しながら、廃棄物を大量にリユースやリサイクルすればよい	24.6	10.8	9.571	有	有
	廃棄物の処理場や天然資源がなくなってくるのであれば、循環型社会への移行はやむを得ない	20.3	37.9	11.668	有	有
	価値観は変わりつつあり、生活水準が落ちることにはつながらないため、循環型社会に移行するべきである	13.3	22.5	7.217	有	有
	廃棄物の処理場や天然資源がなくなってくるのであれば、循環型社会への移行はやむを得ない	19.3	18.6	0.522	無	無
	価値観は変わりつつあり、生活水準が落ちることにはつながらないため、循環型社会に移行するべきである	9.7	2.8	7.148	有	有

* 検定値: $Z = (p_1 - p_2) / \sqrt{p(1-p)(1/n_1 + 1/n_2)}$

p_1, p_2 : サンプル1, 2における比率

n_1, n_2 : サンプル1, 2の数

\bar{p} : p_1, p_2 の加重平均